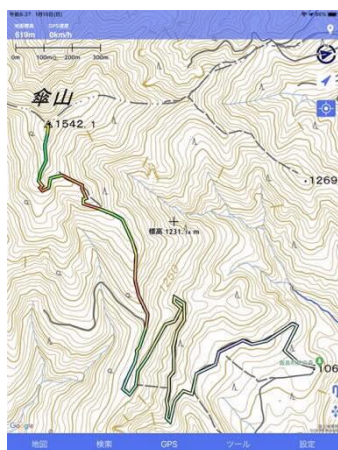


烏帽子の会 1月例会 1月18日実施報告

二つのアルプスを望む展望の山（のはずだったが）

飯島町の傘山（1542m）



この冬の暖かさは戸惑いすら伴う。北では少し降ったようであるが、大町の平野には全く雪がない。降っても雨である。山行当日は南岸低気圧により、長野県南部の予報は雪となっていた。伊那谷に入ると空はどんより低い雲に覆われ、山は山麓でもうっすら白くなっていた。1月の山でも、雪のないことを狙って南の山を選んだのに、なんということでしょう。今回の参加は総勢11名で、駒ヶ岳スマートIC出口で富士見町のSさんと最後に合流して車は3台となった。下見の時に一緒に登り、お世話になった飯島町

役場のMさんが歓迎に駆けつけ、飯島町から見える山がデザインされた手拭を各自にプレゼントしていただいた。南アルプスは仙丈ヶ岳から奥茶臼山まで18座、中央アルプスは将棊頭山から烏帽子岳まで11座の計29の山が標高入りで描かれている。

登山口は傘山の中腹の町民の森駐車場、標高1064mにある。暴れ河川で有名な与田切川の左岸の道が森林整備作業のため通行止めであったため、右岸側の千人塚経由の道のりとなった。登山口ではSさんの烏帽子の会への入会の紹介があった。東京から傘寿の祝いで登るといという数名の団体が先に登って行った。あたりは一面に3~4センチメートルの積雪である。

第一展望台までは、車両通行止めの広い林道を登る。ヒノキやカラマツの林の中の林道は意外と長く、1時間近く続いた。大きなカーブを右に曲がると、林道は平らになり広場に出る。ベンチやトイレもある第一展望台である。ここからは空木岳、南駒ヶ岳、仙涯岳、越百山などの中央アルプスの山並みが見える。写真の案内看板があるが、厚い雲に覆われていた。展望台の先で林道と別れていよいよ登山道となる。ここからあと1時間で頂上である。いきなりの急



カラマツ林のトラバース

登で息が弾む。登山道沿いに太いイヌブナの木がある。岩場の迂回ルートやロープのある急坂を過ぎると平坦になったところに第2展望台がある。ここからは八ヶ岳から南アルプス北部の山々が望めるというが、今日は何も見えない。カラマツのある斜面を南側に長くトラバースし、再び尾根沿いの急登をロープにつかまりながら登る。周りは、カラマツの林床に笹が繁茂する。再び左にトラバースして少し登ると第3展望台に出る。晴れていれば眼前に烏帽子岳がよく見えるという。展望台上のミズナラの大木を過ぎ、10分足らずで頂上になる。右側はカラマツの植林、左側はブナやミズナラの自然林の間にある最後の急な上り坂は少々応える。

樹林帯の中の頂上であるが、東側は広く伐採されて、南アルプスが一望できる。中央アルプス側は冬季は林間から望める。写真付きの看板がある。風がないので頂上で昼食とする。予定より10分ほどの遅れである。先発した傘寿祝のグループは反対側の御嶽山コースを下ったらしく、姿が見えない。代わりにそのコ



頂上で昼食

ースから下伊那農業高校山岳部生徒数人が二人の先生と登ってきた。女生徒もいて、お互いに写真を撮ったりして、がぜん賑やかな頂上となった。知らないもの同士がすぐに親しくなれるのは山が持っている不思議なチカラ、どうしてだろうか。

雪は登山口からさほど増えていないが、何人かはアイゼンを付けた。アイゼンのない人はすべらないように急な登山道を慎重に下った。林道に出るともう安心で、おしゃべりに花が咲く。



頂上にて全員で

ついに南アルプスも中央アルプスも、さらにすぐ近くの烏帽子岳も全く姿をみせず、いただいた手拭がとても良い記念となった。登山口に降りたときは雪が舞ってきた。

帰りは「道の駅花の里いいじま」や隣のお菓子屋さんで買い物を楽しみ、「信州まつかわ温泉清風苑」のアルカリ性のつるつる温泉にしっかりつかり、帰路に就いた。

雪のない雪国から、南の雪山への不思議な1日でした。